

「伝統と文化」を大切にする教育実践事例

① 3学年 道徳 主題名「郷土を愛する心」内容項目4－(5) 資料名「動く はく物かん」学習指導略案

第3学年 道徳 主題名「郷土を愛する心」 内容項目4－(5) 資料名「動く はく物かん」 案
時数(実施時期): 1時間(6月)

1. 内容項目について

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

(5) 郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。

2. ねらい【京都市立小学校教育課程 指導計画 道徳 より抜粋】

心がポカポカしてきたなおきの心を考えることを通して、郷土の文化に親しみ、郷土を大切にしようとする心情を育てる。

⇒ここで一工夫!!

夢いっばいの資料「動く はく物かん」では、時代祭が取り上げられている。時代祭では、行列が御所を通る。時代祭と同様、京都三大祭の葵祭でも行列が御所を通る。

学習の導入では、京都三大祭について知っていることがあるかを子どもたちに問いかけ、葵祭・時代祭の行列が御所を通ること、祇園祭の山鉾が四条通や御池通境界を通ることをおさえるとともに、御所の場所を「京都市の絵地図」(※社会科における地域の学習との関連)を用いて確かめる。このことで、資料「動く はく物かん」の文中にも出てくる「ご所」の位置を把握したり、「ご所」が時代祭の舞台になっていることをとらえたりした上で、学習を進めることができる。



京都には、三大祭があることを知っている子どももいれば、知らない子どももいるであろう。資料で取り上げられている時代祭について知ることで、「5月に行われた葵祭はどのような祭りだったのかな。」「祇園祭についても知りたい。」「時代祭を見にいってみよう。」と京都三大祭をきっかけとして京都の伝統と文化に親しみ、愛着をもつことができるようにする。

また、道徳の学習で京都三大祭について学んでおくことは、国語科「声に出して読もう」の学習で、子どもたちが京都や地域にある地名・寺社仏閣・祭・山・川などを活用して短歌(五七五七七)あるいは俳句(季語:五七五)をつくる「表現活動」にも生かすことができると考える。

3. 授業のイメージ

- (1) 京都三大祭について知っていることを発表する活動を通して、京都三大祭の一つ「時代祭」を身近なものとしてとらえやすくし、資料を通しての学びにつなげる。
- (2) 資料にそって「なおき君」の心を中心に時代祭やそれを大切にする京都の人たちの思いを考える。
 - ①時代祭に出ることになった「なおき君」の気持ち。
 - ②お父さんやおじいちゃんの話聞いた「なおき君」の心の揺れ。
 - ③どのようなことを思ったから、「なおき君」の心がぽかぽかしてきたのか。
- (3) 校区・地域のいいところ(校区・地域で行われている祭のいいところ)を見つけをする。
- (4) 指導者の説話を聞く。

【例:・社会科「わたしたちのまち」で子どもたちと共に校区・地域について学ぶ中で、指導者が見つけた校区・地域のいいところ(校区・地域で行われている祭のいいところ)の話。
・指導者が「京都三大祭」を見たときの感想。】

- (5:事後) 質問紙「自分が『なおき君』だったら、京都三大祭の一つである時代祭についてどのように思うだろう。」について記述式で回答する。

- 1 日 時 平成○年○月○日 (○) ○校時
- 2 主 題 名 郷土を愛する心 4－(5)
- 3 資 料 名 「動く はく物かん(時代祭)」「夢いっぱい」京都市道徳指導資料集)
- 4 ね ら い 【京都市立小学校教育課程 指導計画 道徳 より抜粋】
心がぼかぼかしてきたなおきの心を通して、郷土の文化に親しみ、郷土を大切にしようとする心情を育てる。
- 5 評 価 【価値への関心・意欲・態度】
・時代祭に関心をもつとともに、京都三大祭をはじめ地域の祭に愛着をもち、それらを大切にしていこうとしている。
- 6 主題設定の理由【ねらいとする道徳的価値について】
・時代祭はおよそ120年間行われてきている行事で、京都三大祭の一つである。歴史と伝統の重みを感じることができる。また、時代祭の行列が御所を通る。御所は京都市街にあり、子どもたちにとって身近に感じることができる場所であろう。第3学年の子どもたちは、地域での生活が活発になってくる。社会科における地域の学習では、郷土に関わる内容を学習する機会も増えてくる。そこで、京都や地域の行事や活動に関心をもち、積極的に関わろうとする態度を育てるとともに、京都や地域の伝統と文化に親しみ、大切にすることを通して、郷土に愛着をもつ心を育てていきたいと考えている。

【資料について】

- ・ 本資料は、大きく四つの場面で構成されている。
 - ① 「なおき君」は、おじいさんとお父さんと共に、昔の衣装を着て、時代祭の行列に出ることになった。
 - ② しかし、顔を真っ白に化粧している姿を友だちに見られた「なおき君」は恥ずかしくて下を向いてしまう。
 - ③ 恥ずかしい気持ちを抱きながら時代祭に参加した「なおき君」だが、おじいさんやお父さんの話「動く博物館」から京都の町はずっと昔から続いていることに気付く。
 - ④ いつの間にか「なおき君」は恥ずかしさもなくなり、胸をはって歩くようになり、心がぼかぼかすることも実感する。

【資料を扱う上で留意すること】

- ☆ 京都三大祭について知っていることを発表することで、京都三大祭の一つ「時代祭」を身近なものとしてとらえやすくし、資料を通しての学びにつなげることができるようにする。
- ☆ 恥ずかしさを感じながら時代祭の行列に参加した「なおき君」であったが、いつの間にか「なおき君」の心はぼかぼかしてくる。資料にそって「なおき君」の心を中心に資料を読み取ることで、何がきっかけで「なおき君」の心がぼかぼかするようになったのかを考えることができるようにする。

7 本時の展開

学習活動	主な発問 (◇) 主な指示 (□) 予想される児童の反応 (・) 「学習問題」あるいは「学習のめあて」	必要な資料など (◆) 伝統と文化に関わって必ず提示する資料 (㊟)	支援 (*) 留意点 (○) 評価 【但し、「地域で学ぶ強み」となる素材をどのように学習活動に組み込むのか、その支援については、㊟及び太字ゴシックで示す。】
1 京都三大祭について知っていることを発表する。	◇京都三大祭について知っている人はいますか。 ・京都三大祭。ぼくは知らないです。 ・私は、聞いたことはあるけれど、どのような祭だったか思い出せません。 ・もしかして、葵祭のことかな。 ・祇園祭も京都三大祭の一つではなかったかな。 ・時代祭も京都三大祭だと聞いたことがあるよ。	㊟京都三大祭の写真資料と祭の名称	㊟京都三大祭について知っていることを発表する場を設けることで、京都三大祭の一つ時代祭を身近なものとしてとらえやすくし、資料を通しての学びにつなぐことができるようにする。
2 ビデオで「時代祭」を視聴する。	□今日は、京都三大祭の一つ、時代祭に関する資料「動く はく物かん (時代祭)」を使って、学習していきます。資料を読む前に、時代祭についてのビデオを見ましょう。 ・長い行列なのだね。 ・時代ごとに歩いて行くのだね。	㊟「動く はく物かん (時代祭)」:「夢いっぱい」京都市道徳指導資料集 ㊟VHS「四季に咲く『京都三大祭』」:京都新聞社…京都市視聴覚センターからお借りするもの。	㊟ VHS「四季に咲く『京都三大祭』」の「時代祭」の部分を視聴することで、「時代祭」の行列の様子を把握できるようにする。
3 本時の学習のめあてを確かめる。	□今から、資料「動く はく物かん (時代祭)」を読んでいきます。今日の学習のめあては、『なおき君』にとって、時代祭はどのようなものだろう。」です。 「なおき君」にとって、時代祭はどのようなものだろう。		* 指導者が資料を読み聞かせすることで、子どもたちは「なおき君」の心の変容に気を付けながら資料を読むことができるようにする。

<p>4 時代祭に出ることになった「なおき君」の気持ちを話し合う。</p>	<p>◇時代祭に出ることになった「なおき君」はどのようなことを思っていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段とは違う格好で出ることになったから、恥ずかしい気持ちだったのだと思う。 ・友だちに声をかけてもらったけれど、顔に化粧をしていたから、恥ずかしかったのだと思います。 		
<p>5 お父さんやおじいちゃんの話聞いた「なおき君」の心の揺れについて話し合う。</p>	<p>◇「なおき君」は、お父さんやおじいちゃんの話聞いてどのようなことを感じたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代祭は、京都の長い歴史をあらわしたものだ、とても大切なものなのだ、と「なおき君」は感じたのではないかな。 ・「なおき君」は、時代祭は、多くの人の気持ちがこもったものだということに気付いたと思います。 	<p>㊦「なおき君」のお父さんやおじいちゃんのことをカードにして示す。</p>	<p>㊦「なおき君」のお父さんやおじいちゃんのこと、言葉「一つ一つが京都の歴史なんや。」「『時代祭』は昔のことを伝える大切な『動く博物館』やないかなあ。」を板書することで、「なおき君」の心の変容のきっかけになった言葉であることをとらえることができるようにする。</p> <p>○「なおき君」の心の変容について、板書をもとに振り返る。</p>
<p>6 「なおき君」はどのような様子で歩いてみたのかを考え、表現する。</p>	<p>◇「なおき君」は、どのような様子で歩いてみたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なおき君」は「自信をもって」歩いてみたと思うよ。だって、時代祭の良さを知り、その祭に参加していることがわかったから。 ・「なおき君」は「笑顔で」歩いてみたと思うよ。だって、お父さんやおじいちゃん 	<p>◇短冊 ⇒なおき君は、いつのまにかはずかしくなくなっていました。むかしの子どもになったつもりで、<input type="text"/>歩いてみました。すると心がぼかぼかしてきました。</p>	<p>*資料にしかけ（空欄部分）をつくっておくことで、「なおき君」がどのような様子で歩いたのかを考え、短冊に表現することができるようにする。また、「なおき君」の気持ちを共感的にとらえていることを評価することにもつなげる。</p>

<p>7 指導者の説話をきく。</p>	<p>の話をかいて、時代祭がとてすばらしい祭りであることに気付いたから。</p> <p>□先生が見つけた校区・地域のいいところ（校区・地域で行われている祭のいいところ）の話をきいてください。</p>	<p>㊦校区・地域で行われている祭の名称がわかる場合は、祭の名称カード。</p>	<div data-bbox="1503 161 2074 472" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【価値への関心・意欲・態度】</p> <p>時代祭に参加することによって京都の町にほのかな誇りや愛着を感じ始めた「なおき君」の気持ちを、共感的にとらえ時代祭に関心をもつとともに、京都三大祭をはじめ地域の祭に愛着をもち、それらを大切にしていこうとしている。</p> <p style="text-align: right;">（観察・短冊）</p> </div> <p>○例えば、社会科「わたしたちのまち」で子どもたちと共に校区・地域について学ぶ中で、指導者が見つけた校区・地域のいいところ（校区・地域で行われている祭のいいところ）の話をする。</p> <p>㊦学習後も「葵祭」「祇園祭」「時代祭」の資料を常設掲示しておくことで、国語科「声に出して読もう」の学習に生かすことができるようにする。</p>
---------------------	---	--	---

動く はく物かん (時代祭)

京都三大祭



○ビデオ「四季に咲く『京都三大祭』」の時代祭を見て

長い行列だ。

時代ごとに歩いて行くのだ。

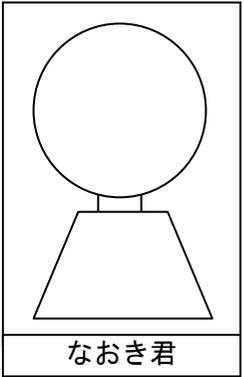
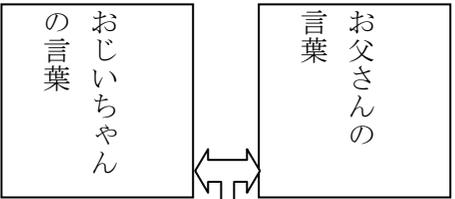
「なおき君」にとって、時代祭はどのようなものだろう。

○時代祭に出ることになった「なおき君」は、どのようなことを思っていたのだろうか。

普段とは違う格好で出ることになったから、はずかしい。

友だちに声をかけてもらったけれど、顔に化粧をしていたから、はずかしい。

○お父さんやおじいちゃんの話聞いた「なおき君」は、どのようなことを感じたのだろうか。



時代祭は、京都の長い歴史をあらわしたものだ。また、とても大切なものなのだ。

「なおき君」は、時代祭は、多くの人の気持ちがかもったものだということに気付いた。

○「なおき君」は、どのような様子で歩いてみたのだろうか。



笑顔で

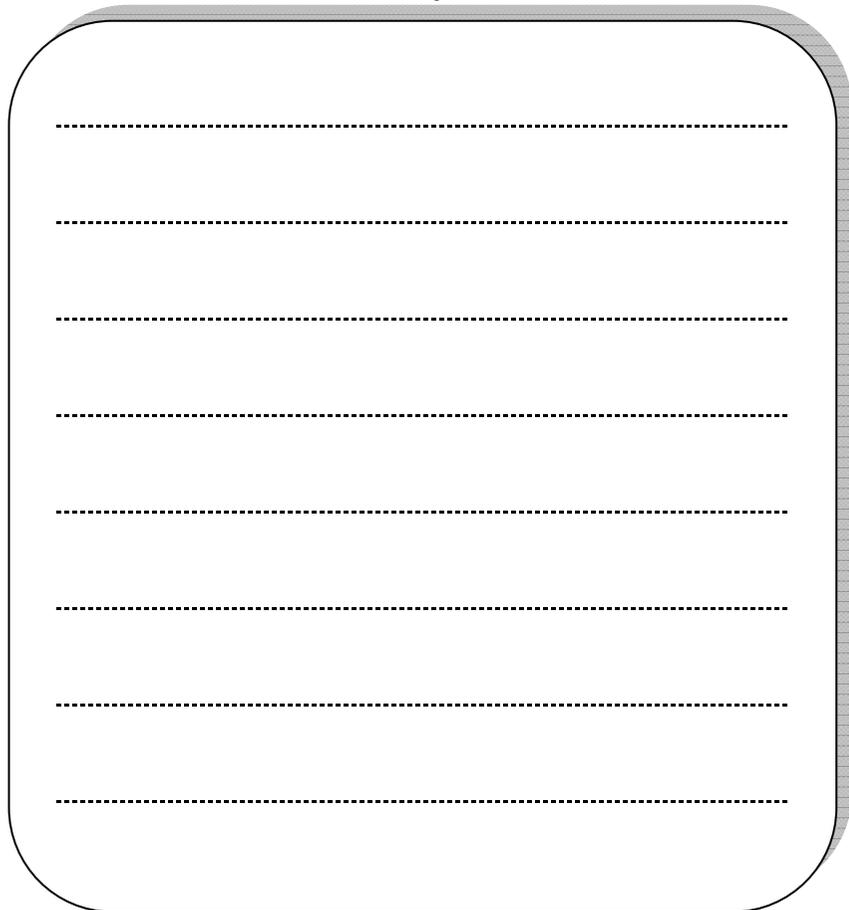
自信をもって

堂々と



・
・

京都や校区は、どのようなところが
すてきなのだろう。



京都や校区は、どのようなところが
すてきなのだろう。

